

直腸肛門痛について

直腸肛門部に痛みがあると、多くの方は先述した痔核・痔瘻・裂肛のような「目に見える疾患」を心配されると思います。しかし最近はそのらいわゆる「痔」疾患とは全く異なる原因が増えています。それは、「消散性直腸肛門痛」あるいは「挙肛筋症候群」と謂われる疾病です。原因については諸説あり、陰部神経痛など何らかの神経機能障害が推測されていますが、未だにはっきりはしていません。痛み方には個人差がみられ、持続の短い鋭い痛みのこともあれば、痛みと言うよりは不快感ないしは鈍重感あるいは違和感という感覚であることも少なくないです。比較的共通しているのは、①痛みの出現するタイミングは排便とは関係がない、②一日中痛いわけではなく忘れている時もある、③割と午後、特に夕方から夜、就眠後に痛みやすい、④疲労や睡眠不足、長時間の座位など心身にストレスがかかった時に起きやすい、⑤寒い時に多く入浴後は楽になる、⑥痔核切除などの肛門手術を過去に受けたことがある方、以上のような特徴を有しています。

治療に関してですが、残念ながら「特効薬」というようなものはありません。ただし、まずは便通が楽になるよう整えた上で、その方の状態に応じ神経機能を落ち着かせる類の薬剤を服用することで、大多数の患者さんに症状の改善が得られます。この際、大切なことは結果を性急に求めないことです。何回か受診され、日常生活の指導や投薬などを行いながら症状の変化を確認し、必要に応じて処方内容などを変更してたとえ少しずつでも症状からの解放を図ってゆくのがよろしいと思います。